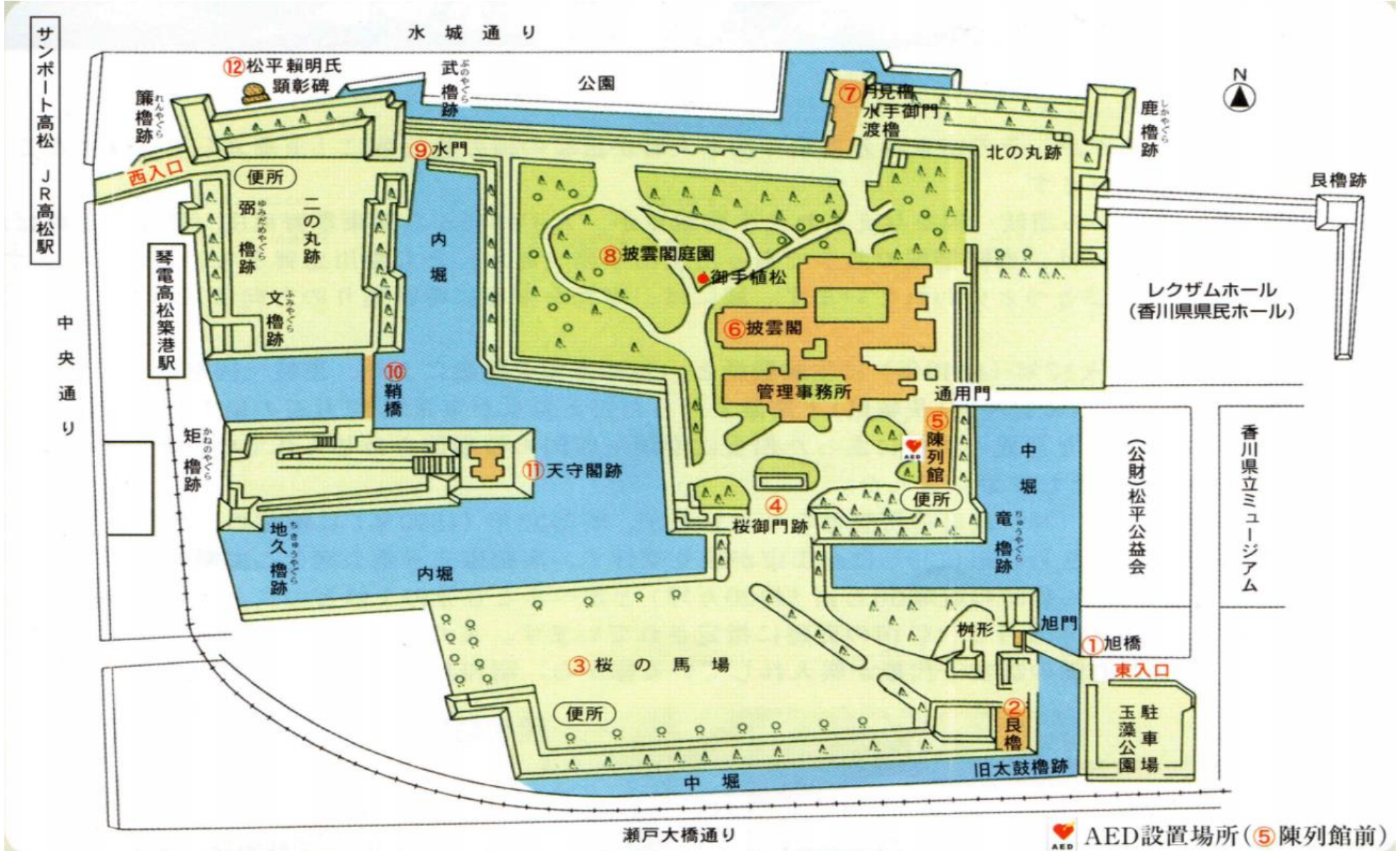


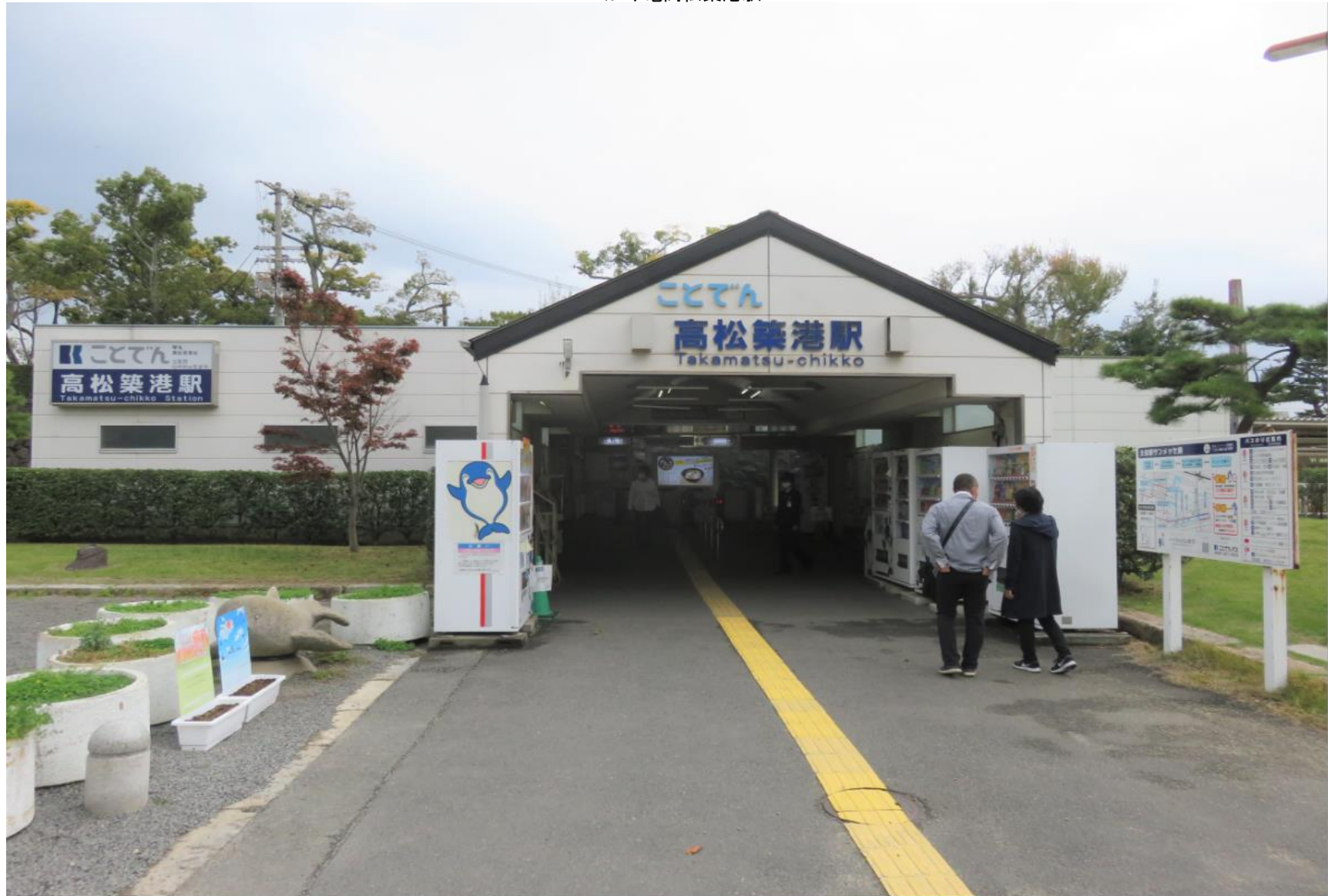
高松城跡(高松市)

築城年代:天正15年(1587年)、築城者:生駒親正

日本三大水城の1つである高松城の縄張図/左手の琴電高松築港駅から二の丸跡~天守閣跡~水手御門~旭門~桜御門跡~被雲閣~陳列館と進む



ここが琴電高松築港駅



ホームの右端付近の石垣/隅は地久櫓跡

[video](#)



内堀に沿った地久櫓跡の石垣を桜御門方向(東方向)に見たところ

[video](#)



史跡 高松城跡

高松城は天正15年（1587）豊臣秀吉から讃岐一國を与えられた生駒親正いこまぢかまさによって、翌16年（1588）に築城が開始されました。その縄張り（設計）は藤堂高虎とうどうたかとら、黒田孝高くろだよしたか、細川忠興ほそかわただおきなど諸説があります。生駒氏は4代54年続きますが、寛永17年（1640）に出羽国矢島でわのくにやしま（今の秋田県由利本荘市）1万石に移されます。その後、寛永19年（1642）に松平頼重まつだいらよりしげ（水戸光圀みつくにの兄）に東讃12万石が与えられ、高松城に入りました。以後、明治2年（1869）の版籍奉還せきほうかんまでの11代228年の間、松平氏の居城として威容を誇ってきました。頼重は、寛永21年（1644）に高松城の改修を開始し、寛文10年（1670）に天守改築、寛文11年（1671）からは東ノ丸・北ノ丸の新造を行い、2代頼常よりつねが完成させました。これに伴い、大手おおてを南から南東へ移し、藩主の住居せいちゆうと政庁を一体化した御殿ごてんを三ノ丸に作ることも行われました。

江戸時代には、内堀、中堀、外堀の三重の堀を有し、約66万㎡（約20万坪）という広さでした。明治初期に外堀が埋め立てられ、さらに徐々に中堀の一部が埋め立てられ市街化が進み、現在約8万㎡のみが城跡として残っています。昭和29年（1954）に高松市の所有となり、昭和30年（1955）に国の史跡に指定されています。

贈…公益財団法人松平公益会

これは駅左手にある「西入口」を見たところ/石垣が見える

[video](#)



その左手に回り込むと、正面の石垣角部は簾櫓跡

[video](#)



簾櫓跡をアップで見たとこ



左手角を見たところ



その左手を見ると、石垣が続いたその先に月見櫓が見える

 video



この石垣の上は武櫓跡

 video



野面積みの石垣をアップで見たところ



月見櫓・水手御門・渡櫓を見たところ

[video](#)



これが月見櫓

[video](#)



説明板/かつて、これらの櫓の外まで海であって、船から水手御門を経て、直ちに城内に入れるようになっており、月見櫓は海手出入りの監視防備のための隅櫓であったと云う

重要文化財

高松城北之丸月見櫓（続櫓）、水手御門、渡櫓

昭和25年（1950年）8月29日重要文化財指定

高松城（玉藻城ともいう）を築城した生駒氏の治世は4代54年間続きましたが、寛永17年（1640年）に出羽の国の矢島1万石（秋田県由利本荘市矢島町）に移封されました。その後、寛永19年（1642年）松平頼重公（水戸黄門の兄）が東讃岐12万石の領主に封ぜられてこの城に入って以来、明治2年（1869年）まで11代228年間、松平氏の居城であり、日本三大水城の一つに数えられています。

月見櫓は、松平氏入封以後新たに海面を埋立てて作られた郭の隅櫓として延宝4年（1676年）2代頼常公の時代に、完成されたものです。ことに渡櫓は生駒氏築城による海手門を改修して建てられました。かつて、これらの櫓の外まで海であって、船からこの水手御門を経て、直ちに城内へ入れるようになっていたところからみて、この櫓は海手出入りの監視防備のための隅櫓であったものとおもわれます。

月見櫓の特色としては、内部に初層から三層の屋根裏まで通じる4支柱が中央に通っていて、それに梁をかけて組立てていることや外壁に装飾的な黒い長押を廻していること、軒は垂木形を塗り出さず一連の大壁としていること、月見櫓より渡櫓に至る一連の建築構造美などが挙げられます。これらの諸建物は松平家から松平公益会に移管され、さらに昭和29年（1954年）1月に高松市が譲り受け、翌年3月から国庫・県費補助を得て解体復元工事に着手し、約1700万円を費やして同32年（1957年）3月に竣工しました。

別の角度から



これはその左手海側に建つ報時鐘

[video](#)



報時鐘


この鐘は松平家初代藩主頼重公が承応二年（一千六百五十三年）城下の人々に時を知らせるため大判三十枚を加えて大阪で鑄させたもので最初外堀の西南稲田外江の邸（現在西内町四鉄病院）に近い外堀土手に鐘樓を設けた。その後一番丁（現在錦町一丁目）に移され明治三十三年（一千九百年）に四番丁小学校校庭に再建され昭和三年一月市庁舎のサイレン設置まで当市の名物として市民に懐しい響きを伝えていた。昭和八年六月四番丁小学校講堂改築に伴い松平家に返納され玉藻公園内に置かれていた。当市は明治二十三年二月十五日に市制を施行し昭和五十五年市制施行九十周年を迎えこれを記念してここに建立したものです。

昭和五十八年二月竣工
高松市

別の角度から



さて、「西入口」から城内に進もう/この先が二の丸跡

 video



ここに、二の丸跡と前方の三の丸跡とを仕切る鉄門があった

 video



そこで、右手(東方向)を見たところ



東方向に進むと、本丸跡へ渡る鞆橋が見えて来る

 video



そこで、右手を見るとここが二の丸跡のエリア

[video](#)



さや ばし 鞘 橋

鞘橋は、二ノ丸から本丸へ続く唯一の動線であり、この橋を落とすことによって本丸だけを守ることもできるようになっていました。絵図等によると高松城築城当時から同位置に橋が架けられていたことがわかります。当初は「らんかん橋」と呼ばれ、1640年代半ばの絵図でも欄干らんかんが描かれており、屋根のない橋でした。その後、文政6年（1823）の絵図では屋根付の橋として描かれており、江戸時代に改修が行われたことがうかがえます。現在の鞘橋については明治17年（1884）の天守解体時に架け替えられたものと伝わっており、大正期には橋脚きょうぎやくが木製から石製に替えられたことが古写真から判明しています。

昭和46年（1971）には老朽化による解体修理がなされ、平成18年から開始した天守台石垣の修理工事に伴って本丸側の一部が解体され、平成23年に修理されました。橋の架かっていた石垣が修理されたことに伴って、解体前よりもやや全長が長くなっています。

贈…公益財団法人松平公益会

鞆橋

 video



そこで、左手(北方向)を見たところ/右手は本丸天守閣の石垣

[video](#)



これが本丸天守閣の石垣



振り返って、南方向を見たところ/琴電高松築港駅が見える



さて、鞆橋を渡ると本丸へ入る虎口があるが、枡形構造となっている

 video



そこで、振り返って鞆橋を見たところ



これは、枡形虎口を進んで振り返って見たところ

 [video](#)



少し退いて、櫓形虎口を見たところ



その右手で東方向を見ると、本丸跡の前方に天守閣跡の石垣が見える

 video



アップで見たところ



これは天守閣跡の石垣辺りで、振り返って西方向に本丸跡を見たところ

 [video](#)



さて、天守閣跡へと登ってみよう

[video](#)



振り返って西方向に本丸跡を見たところ



そこで、左手を見たところ/本丸を取り巻く石垣へと続いている



同じく、右手を見たところ/鞆橋が見える/鞆橋の向こうはこの丸跡



ここは天守閣の地下1階の部分/「田」の字状に52個の礎石が並べられ、区切られた4箇所区画中央にはそれぞれ掘立柱が建てられていたと云う



4本の掘立柱の位置が表示されている



振り返って本丸跡方向(西方向)を見たところ



「田」の字状に並べられた礎石

[video](#)



礎石をアップで見たところ

[video](#)



天守閣の石垣の上に登ると説明板があった



高松城天守 地下1階の発見

高松城の天守台には、かつて3重5階（3重4階+地下1階）建ての天守が建っていました。右の写真に写っているのは松平頼重が生駒期の天守を改築し、寛文10(1670)年に完成した天守です。この天守も老朽化により明治17(1884)年に取り壊され、その跡に初代藩主頼重を祀る玉藻廟が建築されていました。

石垣修理工事に伴い、天守台の発掘調査を実施しました。調査の結果、天守が建てられていた当時の地下1階の基礎構造がほぼ明らかになるという大きな成果をあげました。

天守の地下1階は東西13.6m、南北12.2mの空間の中に、「田」の字状に52個の礎石が並べられ、さらに礎石で区切られた4箇所の区画中央にはそれぞれ掘立柱が建てられていました。礎石には土台の痕跡が残っており、そこから地下1階が当時の寸法で東西六間、南北五間であることが判明しました。この寸法は『小神野筆帖』という文献に記された内容と合致しており、文献の記載が正確であることが判明しました。

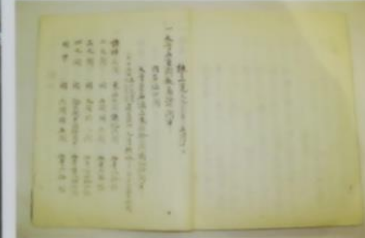
発掘調査成果とあわせて、城内に現存する櫓との比較や、古写真・絵図・文献資料などから、天守の構造について復元案を作成しています。ただし、発掘調査でも分からなかった、内部の階段位置や各階の内装についての情報はまだ得られておらず、今後の新資料の発見と調査の進展が待たれるところです。



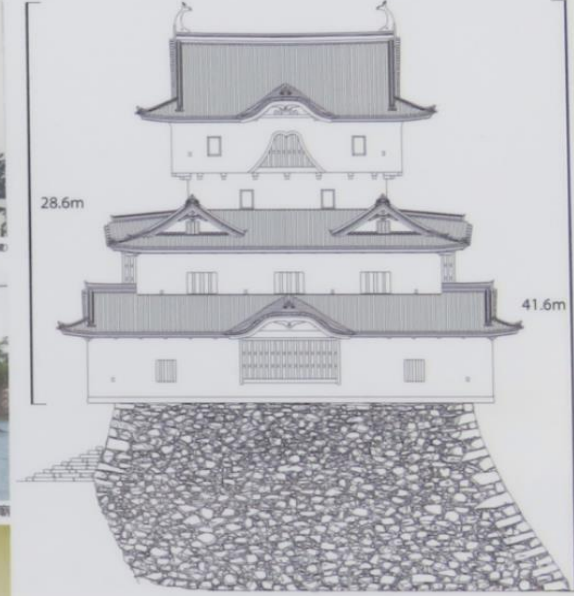
高松城天守古写真 (公益財団法人松平公団会所蔵)



解体する前の玉藻廟

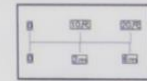


小神野筆帖 仁 (瀬戸内海歴史民俗資料館所蔵)



高松城天守復元南立面図

各種調査成果を基にした天守想定復元図 (南面)
(四国最大の天守)



天守地下1階 4本の掘立柱と「田」の字状の礎石 (この場所から)



天守地下1階 4本の掘立柱と「田」の字状の礎石 (上空から)

天守閣の地下1階の部分を見下ろしたところ

[video](#)



そこから鞆橋方向を見下ろしたところ



同じく、本丸跡を見下ろしたところ



天守閣の石垣の上から、北方向に内堀を見たところ/左手が二の丸跡、右手は三の丸跡



そこで、右手(東方向)に天守閣の石垣天端を見たところ



高松城の歴史

天正15(1587)年に讃岐1国を与えられた生駒親正は、翌16年「野原」と呼ばれていた当地を「高松」と改め、高松城の築城を開始しました。天守も生駒時代に造られており、天守台石垣からは生駒家の家紋が彫られた石材が見つかっています。生駒氏の治世は寛永17(1640)年のお家騒動による転封まで4代54年間にわたりました。

その後寛永19(1642)年に松平頼重が入封し、寛文10(1670)年から天守の改築、東ノ丸・北ノ丸の新造といった事業を実施しました。2代藩主頼常の代には、月見櫓や良櫓の建造、大手の付け替え等が行われ、概ね現在の高松城の形が出来上がります。その後、明治3(1870)年に廃城されるまで、11代にわたり松平家の居城として、東讃岐における政治の中心的役割を果たしてきました。

明治期に入ると、外堀は埋め立てられて市街化が進み、海に面していた城郭の北側も埋め立てられます。また、中堀よりも内側は兵部省(のち陸軍省)の管轄となり、城郭建物の多くは破却され、天守も老朽化を理由に明治17(1884)年には解体されています。明治23年(1890)に再び松平家に払い下げとなったのちに、天守の解体された天守台には初代藩主頼重を祀った玉藻廟が建てられました。昭和29(1954)年に高松市の所有となったのち、昭和30(1955)年には国史跡に指定され、玉藻公園として市民に開放され、現在の姿になっています。



生駒家家紋(波引軍)の刻印



高松城下図屏風(部分)(香川県立ミュージアム所蔵)

天守台石垣の修理工事

天守台石垣は築城後420年が経過しており、石材の割れや抜け、はらみ出しといった傷みが著しく、崩落の危険性が高いと判断されたため、平成17年度より石垣の修理工事を開始しました。この工事は、天守台石垣をほぼすべて解体し、再度積み上げるといった全国的に見ても例の少ない大掛かりなものです。石垣を本来の形状に修理するだけでなく、石垣が傷んだ原因を解明し、修理方法の選択に活かすため様々な調査研究を行いました。石垣は文化財として重要な価値を持つものであり、修理に当たっては適切な記録を行いながら、伝統的な工法で本来の形状に戻すことが求められます。一方で破損の原因を解消するため、最小限の現代的な工法も取り入れています。こうした種々の検討を行いながら、一連の工事は平成24年度に完了しました。貴重な文化財を後世に伝えるため、今後も継続的な調査・整備に取り組んで参ります。

高松市・高松市教育委員会



撮影日:2006.09.14



撮影日:2008.02.05



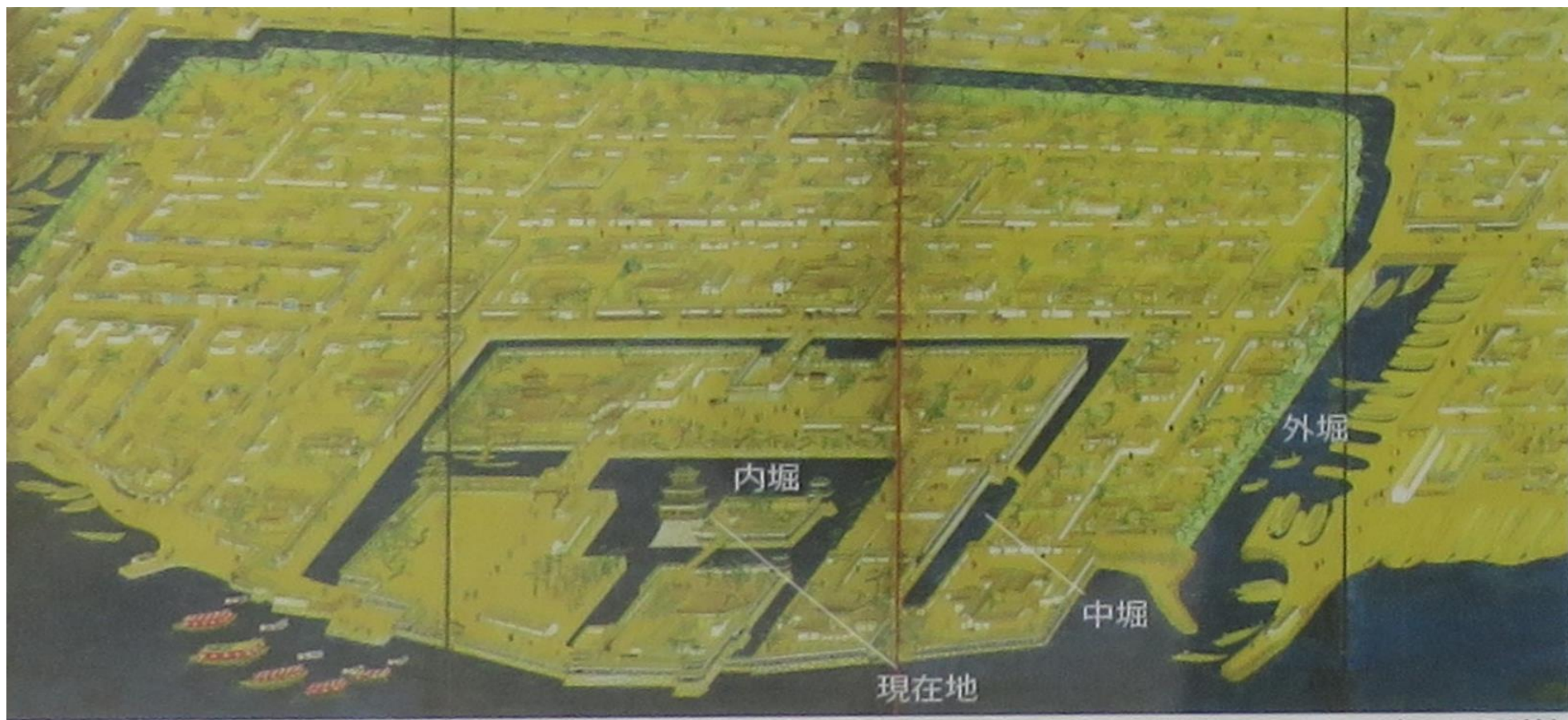
撮影日:2011.03.28



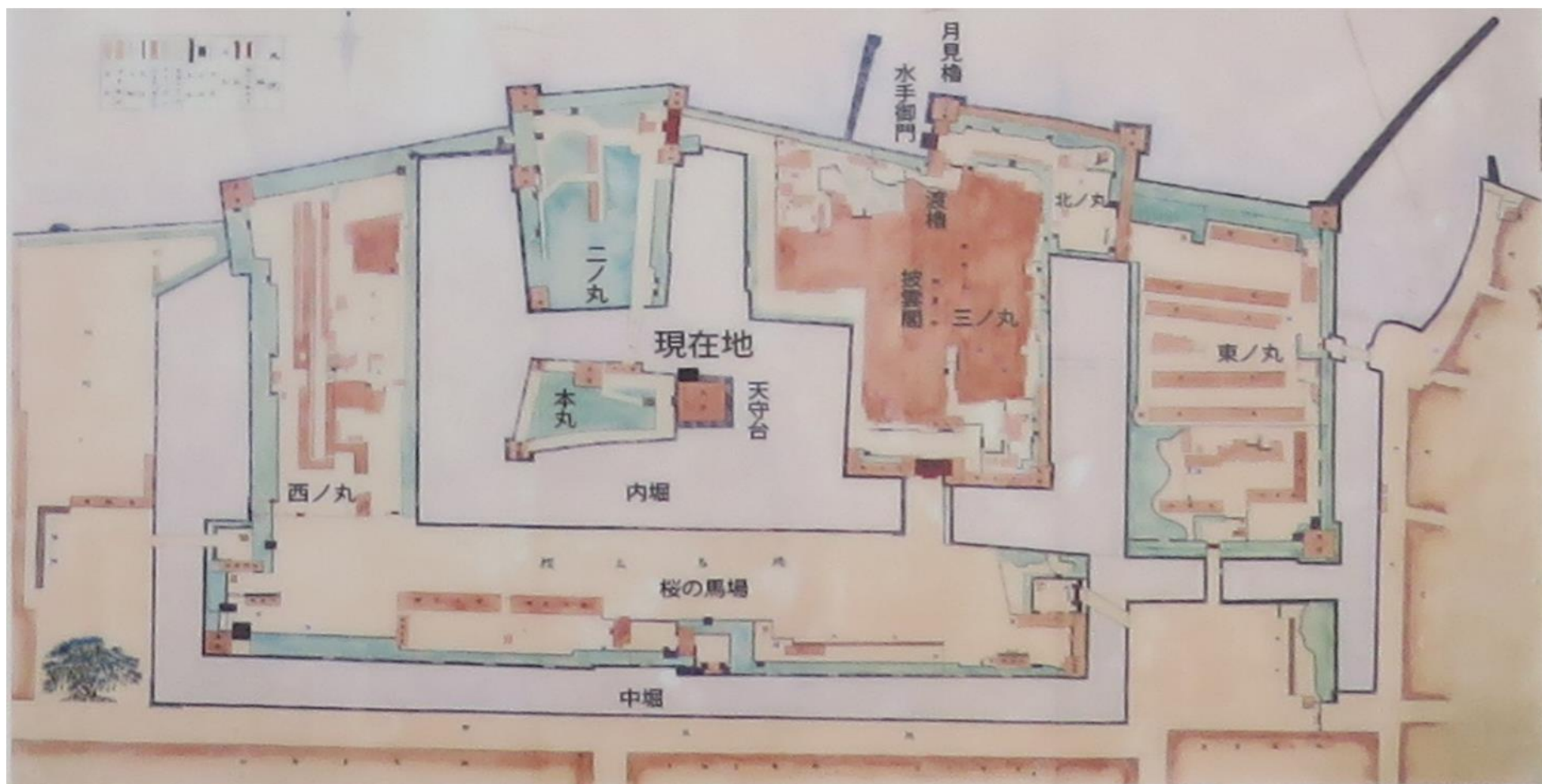
撮影日:2011.11.27



旧高松御城全図(部分)(香川県立ミュージアム所蔵)



高松城下図屏風 (部分) (香川県立ミュージアム所蔵)



旧高松御城全図 (部分) (香川県立ミュージアム所蔵)

さて、ここは二の丸跡(前方)と三の丸跡(手前)とを仕切る鉄門跡/右手に説明板が立っている



くろがねもん
鉄 門

三の丸から二の丸へ入る門としてかつて鉄門がありました。門の上部に長屋状の建物を両側の石垣に渡すように建てられた櫓門やぐらもんという形式の門です。その名の通り鉄板張りの門で、門の北側石垣の東端から約1mの位置に、鉄板のサビが縦方向に直線として残っており、この位置に門扉があったことがわかります。

石垣解体修理に伴う発掘調査では、石垣の上部において豊島石てしまと呼ばれる凝灰岩ぎょうかいがんを組み合わせで作られた東西2.3m、南北1.3m、深さ80cmの床下収納状の施設が発見されました。石垣の盛土中から17世紀中頃の遺物が出土していることや、寛文2年（1662）の落雷に伴う火災により二の丸北部の建物が焼失し、建替えが行われた記録が残っていることから、火災に伴い石垣の積直しも行われ、床下収納が設けられたことが推定できます。

贈…公益財団法人松平公益会

少し退いて、内堀(左手)と瀬戸内海(右手)とを結ぶ水路に架かる橋の上から鉄門方向(西方向)を見たところ/手前左手に水門の上部が見える



そこで、左手(南方向)に内堀を見たところ/前方に天守閣の石垣が見える

[video](#)



水 門

高松城は、北は瀬戸内海、そのほかの三方に堀を巡らせた海城^{うみしろ}であり、日本三大水城の一つに数えられています。海上から見るとその威容^{いよう}はすばらしいものです。明治時代には「讃州さぬきは高松さまの城が見えます波の上」と謡^{うた}われたり、与謝野晶子^{よさのあきこ}によって「わたつみの 玉藻の浦を前にしぬ 高松の城 龍宮^{りゅうぐう}（海底の宮殿）のごと」と詠^よまれたりしています。

江戸時代には内堀・中堀・外堀の3重の堀で囲まれていましたが、明治初期に外堀の埋立てが行われ、徐々に市街化が進み、現在約8万㎡のみが城跡として残っています。また、城の北側も明治時代の度重なる築港工事に伴う埋立てにより、海と接しないようになりました。このため、現在、堀と海は唯一城の北側を通る国道30号の下に所在する水路によってつながっています。堀の水位は潮の干満によって変わっていますが、水門によって水位調節することもできます。海から稚魚^{ちぎよ}が潮に乗って水門から堀に入り、成長した魚（クロダイ、スズキ等）が泳いでいるのが見えます。

贈…公益財団法人松平公益会

海城「高松城」と舟



【高松城下図屏風】（香川県立ミュージアム所蔵）

1640年代中頃の高松城の様子を描いた『高松城下図屏風』において船が描かれています。船口は城の馬場北東部の対面所（旗本手行舟場）に位置しており、船着付きで整備されていることから藩主が乗船し堀を遊覧した可能性もあります。



飛龍丸は高松藩の軍船で、藩主が乗船して参勤交替などに使われました。大きな帆には○が描かれていて、それが高松藩の船の目印となっています。全長31.8mもあり櫓は52ありました。ひとつの櫓を2人の水夫で漕いだそうです。

【高松藩飛龍丸船模型の複製】（1）滋賀県立大久保平田歴史館所蔵、香川県立ミュージアム複製



ここから内堀に漕ぎ出でて、天守閣の石垣を下から見上げることが出来るようだ



さて、そこから三の丸を月見櫓(東方向)へと進むと、石垣の城内側が見て取れる/左前方が月見櫓

[video](#)









水手御門 (重要文化財)

江戸時代、この石垣の北側まで海でした。藩主は、水手御門から小舟で出て、沖に停泊する御座船「飛龍丸」に乗船し遊覧を楽しんだり参勤交代に出かけたりしたようです。

水手御門は直接海に向かって開く海城独特の門で全国唯一の現存例です。

※石垣の上は危険です。上がらないようにお願いします。

左手から月見櫓・水手御門・渡櫓

 video



石垣に沿って多聞櫓が続いていたようだ

 video



渡櫓から月見櫓方向を見たところ



月見櫓

 video





水手御門



そこで左手の渡櫓を見たところ



ここで石垣(左手部分)が継ぎ足されている



月見櫓下の石垣上に登って東方向を見たところ/前方に鹿櫓跡が見える

[video](#)



この橋は旭橋で、前方が東門/ここが大手とされたようだ

 video



大 手

高松城の^{おおて おもてもん}大手（表門）は築城当初南側にありましたが、寛文11年（1671）から始まった^{よりしげ よりつね}松平頼重・頼常による東ノ丸・北ノ丸の新造に伴い、城の南東側に移されました。現在駐車場のある場所はかつて^{げばしよ}下馬所であり、高松城へ登城する人はここで馬を下りて徒歩で入って行きました。

城内に入る橋は^{あさひばし}旭橋と呼ばれています。橋は堀に対して斜めになっており、敵の直進を防ぎ、側面から攻撃できるような仕組みになっています。江戸時代には木製でしたが、明治45年（1912）に高松松平家第12代当主^{よりなが}頼壽により石橋に^か架け替えられました。橋北側の^{おやばしら}親柱に頼壽による「旭橋」、南側に同夫人昭子による「あさひばし」の文字が彫り込まれています。

橋を渡ると、^{あさひもん}旭門と呼ばれる^{こうらいもん}高麗門が見られます。この門に入ると、来訪者を威圧するかのような切石の石垣による^{ますがた}柵形（石垣で囲まれた空間）となっており、左手に曲がるとかつては太鼓門と呼ばれる^{やぐらもん}櫓門がありました。また、柵形の北側には石垣をトンネル状に構築した^{うすみもん}埋門を設けています。

贈…公益財団法人松平公益会

旭橋から左手を見ると良櫓が建っている/重要文化財



これは同じく、右手に中堀を見たところ



中堀に対して斜めになった旭橋を渡ると、旭門と呼ばれる高麗門がある

 [video](#)



旭門を潜ると枡形構造になっている/左手(南方向)に進むと、太鼓門と呼ばれる櫓門跡そしてその先に長櫓がある



これは振り返って旭門を見たところ



その左手で、同じく旭門を見たところ





旭 門

ASAHI GATE

아사히문 旭門

これは枳形の北側にある、石垣をトンネル状に構築した埋門から北方向に中堀を見たところ



さて、正面が太鼓門と呼ばれる櫓門跡/左後方は長櫓



枳形から桜の馬場へと進んで、北西側から良櫓を見たところ/左手は太鼓門と呼ばれる櫓門の石垣



良櫓をアップで見上げたところ



右手に「石落とし」の一部が見て取れる



重要文化財

高松城旧東之丸 良櫓

三重、三階、隅櫓、入母屋造、本瓦葺

昭和25年(1950年)8月29日重要文化財指定

高松城は、讃岐の国(香川県)の国主だった生駒親正公が築城したもので、生駒氏が寛永17年(1640年)に出羽の国(秋田県)に移封せられた後、寛永19年(1642年)に東讃岐12万石の領主として入府した松平氏が本丸、東之丸、北之丸などを修築し、規模を整えたといわれます。東之丸は現在の県民ホールのあたりをいい、寛文11年(1671年)頃より行われた大改修の際、新たに堀を開削して、海に面して新たに構えられた郭です。

良櫓は、もともと東之丸の北東の隅櫓として建てられたもので、北東の方角のことを丑寅(良)ということから、この名前があります。記録によれば延宝5年(1677年)に完成されたようで、現在残されている月見櫓と同時期に建てられたものです。昭和40年(1965年)8月に当時の所有者であった日本国有鉄道より高松市が譲渡を受け、国庫、県費の補助金を得て昭和40年10月より工期2年、工事費2,800余万円を費やして解体修理を行い、東之丸の東北隅より現在の旧太鼓櫓跡に移築復元されました。この移築にあたって、良櫓の規模に合わせて城内側に石垣の拡張工事を行ったほか、石落しの取付の関係上、建物を右に90度回転させています。櫓の構造としては南北に大きな千鳥破風を設けているほか、各階の窓の土戸に特異な形状をもち、さらに2、3階には城内側にも銃眼を設けるなどの特徴が見られます。移築修理の際、この櫓は建立直後に補強的な改造を受けているほか、安政3年(1856年)には、ほとんど解体に近い大修理を受けていることがわかりました。

太鼓門と呼ばれる櫓門の石垣をアップで見たとこ

[video](#)



そこで振り返って、桜御門跡方向(北方向)を見たところ

[video](#)



ここが桜御門跡/南側から北方向に見たところ

 [video](#)



そこで、右手(東方向)に中堀を見たところ/正面の石垣の角は竜櫓跡



同じく、左手(西方向)に内堀を見たところ/右前方は本丸天守閣の石垣



さて、桜御門跡を進むと三の丸のエリアとなる/披雲閣や陳列館などが建っている



振り返って、桜御門跡を見たところ



その辺りから西方向を見ると、内堀越しに天守閣の石垣と鞆橋が見える



披雲閣/旧藩主邸を模して明治時代に建築されたものらしい

[video](#)





現在は茶会や生花の会場として使用されているようだ

[video](#)



こちらは陳列館



出土遺物などの様々な資料が展示されていた

[video](#)



さて、内堀に漕ぎ出でる「城舟」に乗船してみよう

【乗船券売り場】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、租船「玉藻丸」ご利用の皆さまへのお知らせ

- ※発熱や風邪の症状がある方は利用をお控え下さい
- ※十分な手洗い、換気をお願いします
- ※持病にご乗船者様
- ※高圧ジェット・マスキングテープ等、準備してください
- ※乗船にあたっては船頭の指示に従ってください

現在、定員は3名
他のグループと乗合せは
しないルールで運営中です。
ご協力よろしくをお願いします。

【玉藻公園管理事務所】

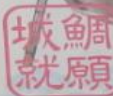
【乗船料】
大人500円
(高校生以上)
小人300円
(5歳以上)

☆5歳未満は乗船できません
(can not get on a ship under 5 years old)
我不能上5歲以下的船
5 세 미만의 연령에 탑승 할 수 없습니다

〈乗船券販売時間〉
午前 8:50~11:30
午後12:50~16:00

「玉藻丸」乗船状況、乗船券は船頭が販売します。

乗客	乗船券	1	2	3	4
1	8:50~	4	2	1	
2	9:00~	4	2	1	
3	9:10~	4	2	1	
4	9:20~	4	2	1	
5	9:30~	4	2	1	
6	9:40~	4	2	1	
7	9:50~	4	2	1	
8	10:00~	4	2	1	
9	10:10~	4	2	1	
10	10:20~	4	2	1	
11	10:30~	4	2	1	
12	10:40~	4	2	1	
13	10:50~	4	2	1	
14	11:00~	4	2	1	
15	11:10~	4	2	1	
16	11:20~	4	2	1	
17	11:30~	4	2	1	
18	12:50~	4	2	1	
19	13:00~	4	2	1	
20	13:10~	4	2	1	
21	13:20~	4	2	1	
22	13:30~	4	2	1	
23	13:40~	4	2	1	
24	13:50~	4	2	1	
25	14:00~	4	2	1	
26	14:10~	4	2	1	
27	14:20~	4	2	1	
28	14:30~	4	2	1	
29	14:40~	4	2	1	
30	14:50~	4	2	1	



城舟体験
史跡高松城跡 玉藻公園

記念缶バッジ
浮きエサ付き

丸藻王

【玉藻公園管理事務所】 電話 087-851-1521 【ホームページ】 <http://www.takamatsujyo.com/>

前方が天守閣の石垣

 video



隅の「算木積み」が見て取れる

[video](#)



鞆橋の向こうに琴電高松築港駅のプラットホームが見える

 [video](#)



「算木積み」をアップで見たとこ

[video](#)



これは船着き場の脇にあった水門/この先が瀬戸内海に続いている



この内濠には様々な海水魚が生息しているらしい



参考ホームページ

<http://mizuki.my.coocan.jp/sikoku/takamatu.htm>

<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/smph/kurashi/kurashi/shisetsu/park/tamamo/bunzai201806051.html>

<https://www.art-takamatsu.com/jp/travel/sightseeing/entry-436.html?lang=save>

<http://www.takamatsuiyo.jp/aboutstory/219>

<https://tabi-mag.jp/ka0079/>

<https://www.hb.pei.jp/shiro/sanuki/takamatsu-iyo/>

<http://sano567.my.coocan.jp/SIROATO/takamatujyou/index.html>

